



國家圖書館編

東亞同文書院 中國調查手稿叢刊

70

國家圖書館出版社

六月四日

六月三日



國家圖書館
編

東亞同文書院
中國調查手稿叢刊

70

國家圖書館出版社

第七〇冊目錄

昭和十七年（一九四二）旅行日誌（第三十九期生）

唐川博	第十一班		一
西澤信男	第十一班		三九
絲谷禮輔	第十二班		八三
湊保	第十二班		一一七
宗方健二郎	第十二班		一四五
金丸一夫	第十二班		一八七
廣長敬太郎	第十三班		二二七
杉山恭衛	第十三班		二五五
山田靜雄	第十三班		二九九
横田文真	第十三班		三二三
大久保啟三	第十三班		三六三

鵜飼達哉	第十三班		三八九
芹澤五郎	第十四班		四二一
内倉三郎	第十四班		四四九
小島和雄	第十四班		四七五
石丸岩夫	第十五班		五一七
松尾七郎	第十五班		五六三
鈴木吉之	第十五班		五九七
久保徹之	第十五班		六一七

昭和十七年度

大旅行日誌

第十一班

唐川 博

大旅行日誌 第一部

北支調査第十一班

廣川

博

大旅行日誌

第十一班 北支調査班

唐川

博

六月五日

金曜

晴

午前五時起床七時正門にて在學步一同の嵐吹けく

送られて長旅に立つ同伴の若三十名許り九時半に至り

て我等が乗船青島丸は一踏青島へ回れ出帆す

午後三時南船の校令具裝備の練習あり海は實に静かて

ある

六月六日

土曜

晴

午後二時半青島着出迎への学生の手内にて海王協会に

入る徒歩にて青島神社参拜後午後六時頃亜俱樂部に行	く先輩の歡血命なり出席者學生側三十名先輩側五十名	場々等々名盛んであつた九時解散目下青島は防空演	習中では街は暗い	六月七日 日曜 晴	縣人學生と共に太平路に縣人先輩三原氏を訪問する	午には海浜公園に出る海濱水浴場を見て午後七時三原先	輩トリク余の招待を受けし	六月八日 日曜 晴	奥田先生と共に朝鮮銀行に水原先輩を訪ね同種々話と聞く
--------------------------	--------------------------	-------------------------	----------	-----------	-------------------------	---------------------------	--------------	-----------	----------------------------

以後中國銀行に金原氏を次いで中國聯合華南銀行に遷り
田男孺氏訪問有益なる計を圖し、午後は事う砲台公園を
散歩し、忠魂碑に詣り

六月九日 火曜 晴

六時半起床、洋車にて火車站に向ひ、午前八時半の列車に
上り、路傍南に向ふ途中、周村―太臨池間にて本朝列車事
故あり、同村站にて約三時間停車した。三等車には苦力多
く、南京虫が移つた。午後九時半、清南着、田浦先輩に
案内され、富士旅館に入る。一同十名である。清南も燈火
管制の前大へん暗い。

六月十日 水曜 晴									
清南は暑い。午前中は軍司令部に挨拶に行く。軍司令官より激勵されて後降し。總領事館訪問。午後四時廣川先輩より御案内にて總領事館のトウツクにて4沸山大明湖見学。午後六時より先輩の歓迎会あり。成程大であった。									
六月十一日 水曜 晴									
昨夜は暑くして熟睡出来ず。紀きてから七ふらぐ。いし屋より午後二時半の列車で徳縣に向ふ。五時半徳縣站着。途中はあつた砂塵であつた。馬家留口街なる同姓西澤兄の縣人宅を訪ねる。宿る。徳縣は砂塵と平流さんといふ街であ									

午前九時頃	徳縣院	午後三時十五分	無事天津車站着	双義
我等三名	即元介になつた	内村氏宅を辭し	徳縣站に急ぐ	
六月十一日	土曜	晴		
痕れた	在け	風爐に入りぬる		
航業公會	と訪ね	氏船に乗り附く	二三里歩いた	りて足が
事とし	西澤兄と	しして	大陸河に出かけ	る
午前九時	起床	同班三名の中	中村兄は不快の氣	休養する
六月十二日	金曜	晴		
る				
る	青南に	比べると	大分田舎所	で水が少い
				には一寸困

談	同町	大い	後別	朝西	不月	大い	澤見	体不	旅館
じ	出身	に	れ	沢見	イ	によ	と	調	なる
て	の	歓待	て	と	四	い	二	い	支那
辞	佐藤	され	日	人	日	か	人	ある	宿に
す	氏を	先輩	分	で	曜	俚所	で	中村	入る
氏	佐藤	の	け	他	晴	には	焼	兄は	日本
は	氏を	栗内	中	衛		は	の	今夜	租界
東	調子	で	学	大		一	ア	け	を
站	路に	北	生	丸		才	ン	縣人	散歩
の	訪ね	寧	と	百		困	の	宅に	する
助	大い	園に	富	貫			上	宿る	中村
役	に	遊	島	志			で	なり	兄の
あ	飲	ぶ	荘に	で			ね	面	身
る	大い	後	訪	朝			る		
	に	同	ね	穀			宿		
		じ	た	兼			の		
		く		妻			東		
				食			家		
				と			の		
				り			招		
							待		

六月十五日

月曜

晴

昨夜から西澤兄は先輩宅に宿を借り昨夜は快りいねた

午前中、中村兄、西沢兄と訪ねる自分も宮島荘アパルトの

同郷人小田氏宅に宿る小田氏に実にとく満いて下さる

脚意に甘えて一夜の宿もお借りする

六月十六日

火曜

晴

七時起床小田氏宅を辞して驛に向ふ一すいた都合で他

の一人と別れくとなり自分だけ午後一時五分列車にて

北京に向ふ午後六時北京站着全く勝手からなかつ

たかそこは心臓で洋車を呼ぶ小田氏に聞いておた花園

